みんなちがってみんないい

とっておきの音楽祭♪

障がいのある方もない方も一緒に音楽を楽しみ、音楽の力で、心のバリアフリーをめざす『兵庫・丹波篠山とっておきの音楽祭』が4月23日(土)、田園交響ホール周辺の5つの会場で3年ぶりに開催されました。
今回は、「とっておきの音楽祭」を取材しましたのでお伝えします！

マザーハウス♥LOVE♥ダンサーズ

緊張したけど、みんなの応援がうれしかった。笑顔でダンスが楽しめました

３年ぶりの開催となり、会場で音楽を通して心のふれあいを感じ、改めてとっておきの音楽祭の喜びを感じました

ちめいど

「音楽を通して、ふれあい楽しむ」。私たちにできることで、人にやさしいまちづくりをめざしていきたいと思います。

県多紀'Sと107ソングの心をうたう仲間たち

とっておきの音楽祭開催当時から、ずっと続けて楽しく出演させてもらっています。会場の皆さんと心ひとつに歌う楽しさに幸せを感じます。また来年も会場でお会いしましょう！

歌声喫茶ささやま

広がれ、心のバリアフリー

コロナ禍の中、社会的な距離感や心の距離感に孤独を感じることも多かったことだと思います。3年ぶりに開かれた「兵庫・丹波篠山とっておきの音楽祭」では、久しぶりに多くの方とコミュニケーションをとったり、さまざまな方とふれあったりすることで、「心のバリアフリー」を感じる、ふれあいが楽しい心温かい一日となりました。

音楽祭では、来年4月22日(土)の第8回目の開催を予告して終演しました。それと同時に、来年の出演を目標に新しい取り組みが始まります。

ひとときのふれあいが、優しいまちづくりの一歩になる「とっておきの音楽祭」。ぜひ、次回の開催をお楽しみください♪

リポーター 畑弘恵さん

音楽祭との出会い

「とっておきの音楽祭」は、2001年に仙台市で始まり、全国各地で開催されています。丹波篠山で開催するきっかけとなったのは、東日本大震災のボランティアで宮城県に行ったとき、仙台市で偶然「とっておきの音楽祭」を見て感銘を受けたことに始まりますと、実行委員会事務局長の山中信彦さんは当時を振り返られます。

まちの中にいくつものステージが広がり、車イスやストレッチャー、障がいの有無に関わらず歌い踊り、まち行くみんなが観客で、会場が一体となり笑顔があふれていました。そんな光景に感動し、障がい者がまちに出ることで、誰もが安心して暮らせる温かなまちにしたい！そんな思いから「兵庫・丹波篠山」での開催が始まりました。

山中信彦さん
とっておきの音楽祭
実行委員会事務局長

広がる心の絆

今回第7回目を迎えた音楽祭。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて3年ぶりの開催となりました。3年前は全国から108組が参加。今回は44組が出演し、歌やダンスなど、さまざまなパフォーマンスが披露されました。出演者を支える家族の方をはじめ、100人ものボランティアスタッフ、応援に訪れた仲間の方々は、会場の皆さんとのふれあいを通して、絆の輪を広げていました。

音楽のチカラ

実行委員長の小西達也さんにお話を伺うと、「障がいがある人もない人も、一人ひとりが自分にできることを行い、力を合わせることで、大きな感動を共有することができました。人とのふれあいや音楽とのふれあいで『心のバリアフリー』が広がり、3年ぶりに開催できたことに喜びを感じました」と話されました。

小西達也さん
とっておきの音楽祭
実行委員長

鈴木凜太朗さん

ピアノが大好きで各地で演奏活動をしています。コロナで活動が少なく、久し振りの演奏で緊張したけど、集中して演奏ができてよかったです

石田裕之さん

私にとって「とっておきの音楽祭」は、みんながお互いに幸せを分けあえる場だと感じています。歌を提供することで、みんなの笑顔が広がり、私自身100倍の元気をもらっています

淡路ぬニセター

視覚に障がいがあり、楽譜を見ることも歌詞をみることもなく心で記憶する音楽活動の苦労は人一倍。そんな苦難を乗り越え音楽活動中。今回、丹波篠山でのご縁をきっかけに洲本市から初参加。たくさんの人に聞いてもらい歌う喜びを感じることができました

地域活動支援センターWANT

笑顔で踊れるように練習を頑張り、本番は楽しく踊ることができました

フィナーレ(田園交響ホール)